

2024年度 運輸安全マネジメントレビュー

取組計画	実施状況	経営トップレビュー
1. 安全方針 私たちは、安全に対する意識の向上を図り、お客様を安全かつ快適に輸送します。 (1) キーワード 安全・安心・親切 (2) 指針 ア 安全風土の確立 イ コンプライアンス（法令遵守）の徹底 2. 安全重点施策 (1) 全社員の安全意識の向上 (2) 安全輸送への必要な支出や積極的な投資 (3) P D C Aサイクルの徹底による見直しと改善 (4) 情報共有のできる体制づくり (5) 教育・研修の計画的な実施 3. 数値目標 (1) 有責事故 39件以下 10万キロ当たり 0.34件以下 (2) バック事故 12件以下 (3) 過失割合100%事故 19件以下 4. 取組内容 (1) 月別重点抑止項目の設定 (2) ドライブレコーダー映像を活用した指導・教育 (3) ヒヤリハット情報の収集・活用 (4) 運輸安全マネジメント委員会の開催 (5) 運輸安全マネジメント会議の開催 (6) 班長会議、班会議の開催 (7) 事故防止研修会の開催（全社研修） (8) 事故防止研修会の開催（営業所、UD、階層別） (9) 教育・訓練（新入社員） (10) 事故惹起者への指導・教育 (11) 交通安全運動の展開（春夏秋冬、年末年始） (12) 経営トップ、安全統括管理者による職場巡視 (13) 経営管理部門による職場巡視 (14) 健康診断の実施（定期・指定業務） (15) 保健師による健康指導の実施 (16) 無事故表彰 (17) 名鉄タクシーグループ運輸安全会議への参加 (18) 外部研修への参加 (19) 重大事故訓練 (20) 全社交通安全祈願（1月） (21) 安全投資 (22) その他 5. 内部監査 内部監査委員会による内部監査（3月）	1. 安全方針 2. 安全重点施策 (1) 各職場の運輸安全マネジメント掲示板に掲出 (2) コンプライアンス月間に携帯カード所持チェック 3. 数値結果 (1) 有責事故 本年度 80件 目標比 +41件 前年度比 +18件 10万キロ当たり 本年度 0.66件 目標比 +0.32件 前年度比 +0.15件 (2) バック事故 本年度 25件 目標比 +13件 前年度比 + 9件 (3) 過失割合100%事故 本年度 51件 目標比 +32件 前年度比 +10件 4. 取組みの実施状況 (1) 計画通り実施 (2) 11月より全乗務員を対象に危険運転のあぶり出しを開始 (3) 重点営業所（稲沢、小牧）を中心に取り組み、グラフ化して共有 (4) 計画通り実施 (5) 計画通り実施 (6) 計画通り実施 (7) 3/27 稲沢警察署 交通課長講話、自動車事故対策機構（ナスバ）講師の講話 (8) 事故が多発した津島（7月）で事故防止研修会を開催 UD研修における事故防止内容を充実 経営トップが営業所長に対してドライブレコーダー映像活用方の研修を実施 (9) モニターを使用し、動画などの教育を充実 (10) ドライブレコーダー映像により悪い癖を修正する個別指導を随時実施 (11) 計画通り実施 (12) 計画通り実施 (13) 経営管理部門も経営トップ、安全統括管理者に同行して職場巡視を実施 (14) 計画通り実施 (15) マネジメント会議で所長に指示、また個別に面談を実施 (16) 基準に従い該当営業所を表彰した (17) 2回参加（4月、8月）、ケーススタディ、事故防止セミナー（11月）にも参加 (18) 国土交通省 防災セミナー（6月）、運輸安全マネジメントセミナーに参加（12月） (19) 3/27事故防止研修会（全社研修）において稲沢重大事故の振り返りを行った (20) 労使幹部で交通安全祈願 成田山（1月） (21) 新型ドライブレコーダーへの更新を随時実施 (22) その他 「事故防止十か条」を重大事故防止の観点で見直し 高齢者の65歳受診後の適齢診断を2年毎に変更実施 自社簡易スタンドを建設（江南、春日井）…ゆとりのある運転環境の向上 8月26日、30日 台風10号の接近に伴い防災対策会議を招集 5. 内部監査 (1) 監査日 2025年3月31日 本社会議室 (2) 監査員 森次長 対応 平松安全統括管理者、佐分事務局 (3) 講評・所見（詳細は内部監査報告書参照）	1. 安全方針 2. 安全重点施策 2024年度の事故多発状況を見ると、乗務員の安全意識の低下を受け止めなければならない。 年度末、営業所長に対して直接研修を行い、ドライブレコーダー映像のチェックポイントについて具体的にお話をさせていただいた。 事故防止には具体的な指導・教育が必要なので、2025年度では具体的な指摘・指導により乗務員の安全意識を向上させる。合せて重大事故に繋がりがねない危険な運転をあぶり出し指導する。 3. 数値結果等について 有責事故は80件。前年を大きく上回る結果となってしまった。 内訳を見ると過失割合100%の事故が前年より若干減少したが64%を占めており、また重点項目のバック事故が目標を超えて25件発生した。 事故惹起者には、ドライブレコーダー映像により事故に繋がった悪い癖を指摘し修正する取り組みを強化して再発防止を図る。 4. 2025年度の取組み (1) 中期計画（2023年度～2025年度）に沿って取組みを進める。 (2) 例年の取り組みを目的意識を持って取り組む (3) ドライブレコーダー映像を活用した指導・教育の定着化 全乗務員を対象にドライブレコーダー映像をチェックする「危険運転のあぶり出し」を定着化させ、チェックスキルも向上させる。 事故惹起者への「悪い癖の修正」もチェックスキルのレベルアップを図る。 (4) ヒヤリハットの情報収集・活用 中期計画に沿って、2025年度は津島、江南営業所を重点営業所に設定し特にしっかり取り組んでもらう。 2024年度は提出されたデータをグラフ化し共有を図ったが、今後は具体的な事例も共有しより効果を高める。 (5) 高齢者の65歳受診後の適齢診断を2年毎に実施しているが、2年毎に変更した理由を理解し、高齢者の健康と運転適性の状況把握をしっかり行う。 (6) 高齢者を対象に事故防止研修会を開催する。 (7) 管理者の事故防止意欲をより高める人事評価制度を導入する。 (8) 重大事故対応マニュアルを運輸安全マネジメント会議で定期的に確認する。 (9) 安全投資を実施 車両更新は、事故の回避や衝突被害を軽減させる安全運転装置が搭載された車両とする。 新型ドライブレコーダーへの更新を実施 以上